

# 第3学年 保健体育科学習指導案

日 時	平成28年1月9日(水)
場 所	花巻市立花巻中学校体育館
対 象	花巻市立花巻中学校 3年3・4組男子 (3組19名 4組21名 計40名)
指導者	教諭 大坊 春樹

## 1 単元名

球技 ア ゴール型 「ハンドボール」

## 2 単元について

### (1) 教材について

球技は、ボールなどを媒介として、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し得点を取り合って勝敗を競い合うことをねらいとし、チームの課題や自己の能力に適した課題の解決に取り組んだり、ゲームを楽しんだりする運動である。

ハンドボールは、2つのチームがコート内で相互に攻撃と防御に分かれ、敵味方が入り乱れてボールを奪い合い、パスやドリブルを用いてゴールにシュートし得点を競い合うゴール型の集団スポーツである。チームが一定の時間、空間、ルールのもとで戦術や作戦を駆使して得点を競い合うという構造をもっている。

ハンドボールの特性としては、①基本的な運動能力である「走・跳・投」の3要素を発揮することが要求され、生徒の発育・発達を促すのに適している。②比較的ルールも簡単であり、ボールが小さく、誰にでも容易に気持ちよくプレーすることができる。③仲間と協力するプレーがしやすく、チームのコンビネーションや作戦による様々な攻撃と防御の技術などが考えやすい。④生徒の発達段階に応じて、道具や場の設定の工夫、ルールなどの工夫ができる。などが挙げられ、生徒達が主体的に取り組みやすい教材である。

ハンドボールの技術は、走りながらパスをつなぐ走力、シュートを打つための投力や瞬発力、その他、敏捷性や調整力をはじめ、多くの運動要素を含んでいる。また、チームや自分の課題を見つけ、課題解決を図ることによって、練習やゲームを工夫する能力が高まっていくと考える。さらに、チームにおける自分の役割を理解し、その責任を果たし、互いの長所を認め合いながら協力して、仲間同士の信頼関係を深められるものと考えられる。そして、ルールやマナーを守り、勝敗に対する公正な態度を養うことができる。

よって、この学習を通して運動の仕方や体力の向上、公正・公平の精神を学び、ハンドボールを楽しむことができる力を身に付けることにより、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現のための、基礎を培うことができると思う。

### (2) 生徒について

生徒達は進んで準備をしたり、互いに声をかけ合ったりと、保健体育の授業を意欲的に活動することができる。運動能力は全体的に高く、ボールの扱いが上手な生徒も多い。ハンドボールについては2学年時に経験しており、基本的なボール操作と空間に走り込む技能を身に付けている。

3年生になり、これまでの基礎基本の知識や技能の定着に加え、空間を作りだすための動きを身に付けたり、仲間同士で適切なアドバイスをし合いながら技術を高めたりする力や、課題に応じた練習や戦術の工夫をしたりする力など、他と関わり合いながら運動を分析したり、運動そのものを楽しんでいくことができるような資質や能力を、さらに向上することができるように学習に取り組ませたいと考えている。

3 単元の目標 ※ ( ) は、球技の他の型で扱う内容

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。(技能)
- ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することができる。
- (2) (球技に自主的に取り組むとともに、) フェアなプレイを大切にしようとする事、(自己の責任を果たそうとする事、) 作戦などについての話し合いに貢献しようとする事 (などや、健康・安全を確保すること) ができるようにする。(態度)
- (3) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

4 単元及び学習活動に即した評価規準 (・は、球技の他の型で扱う評価規準)

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の 技能	運動についての 知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたって球技を豊に実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	球技の特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>①フェアなプレイを大切にしようとしている。</li> <li>・自己の責任を果たそうとしている。</li> <li>②作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。</li> <li>③互いに助け合い教え合おうとしている。</li> <li>・健康・安全を確保している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴をふまえた作戦や戦術を選んでいる。</li> <li>②仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。</li> <li>③作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切な関わり方を見付けている。</li> <li>・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。</li> <li>・球技を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールの枠内にシュートをコントロールすること。</li> <li>①味方が操作しやすいパスを送ること。</li> <li>②ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。</li> <li>③パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。</li> <li>④ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。</li> <li>・球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。</li> <li>・運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。</li> <li>②試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。</li> </ul>

5 指導と評価の計画

	時間	1	2	3	④ 本時	5	6	7	8	9	10	11
学習の流れ	0	準備運動・基礎練習										
	10	オリエンテーション 試しのゲーム	チーム作り	3対3 マンツーマンDF (ハーフコート)	3対3 ゾーンDF (ハーフコート)	リーグ戦 (ハーフコート)	チーム作り	チームの課題	6対6 ハンドボール 対抗戦 (オールコート)			
	20		課題作り				課題作り	ゲーム				
	30		ゲーム	ゲーム	ゲーム		ゲーム (オールコート)	チームの課題				
	40						ゲーム					
	50		まとめ									
内容	態度						②		③		①	
	思考判断				①				②	③		
	技能		①	②④	③	④						
	知識	①										②
評価機会	態度						②		③		→	①
	思考判断				①				②	③		
	技能					④		②		③	①	
	知識	①										②

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ①提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴をふまえ、ボールをもらうための動きを見つ  
けることができるようにする。 (思考・判断)
- ②パスを出した後に次のパスを受ける動きができるようにする。 (技能)

(2) 本時の評価規準

	評価規準	努力を要する生徒への手立て
思考・判断	誰もいないところに走り込んでボールをもら う方法を見つけ出している。	補助教材を活用したり、アドバイスをしなが ら理解を深められるようにする。
技能	誰もいないところに走り込んでボールをもら い、シュートにつなげることができる。	作戦板や他のゲームを活用し、視覚で動きを とらえられるようにする。

(3) 本時におけるユニバーサルデザインのポイント

時間の構造化…授業の流れ、時間の目安、学習形態を示し、見通しを持たせ、落ち着いて授業に取り組ませる。  
共有化…自分の考えをグループの仲間に伝え合い、理解を深めさせる。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動	指導上の留意点 ●全体 ○個への配慮 ☆UD	評価の観点から
導入 1 0 分	1 用具を準備する。 2 準備運動を行う。 ①ストレッチ (個人・ペア) ②ハンドボールドリル (2メン・3メン) 3 集合し挨拶を行う。 4 学習課題を把握する。	○巡視を行いながら声をかける。 ●主運動につながるドリルを行う。 ●基本的な個人技能の確認をする。 ○上達を褒めながら意欲を引き出す。 ☆【時間の構造化】 本時の見通しを持たせる	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             スペースに走り込んでノーマークシュートにつながる動きを見つけよう。           </div>			
展開 3 0 分	5 課題解決のための活動 教材…マンツーマンDF ①タスクゲームを行う。 「スリーズ」 ②チームミーティング ※①と②とを繰り返す。 7 試しのゲーム 工夫したルールでミニゲームを行う。 《工夫》 ・勝敗…①全員得点 ②全員シュート ③全員触球 等 ・ゴールの形…平面 or 立体	●DFの形態を確認する。 ●課題解決のために必要なことは何か探りながらミニゲームをすることを意識させる。 ☆【共有化(グループ)】 チームリーダーを中心に課題解決に必要なことを習得・発揮できているか確認・助言させる。 →教師を介して、全体に共有することもあり得る。 ※以下のような発見を期待する。 ・空いているスペースを探し移動する。 ・パスの後に次のパスを受ける動きをする。 ・ボールを持っている者に指示をする。 ・自ら相手を引きつけてスペースを作る。 ・ボールを持っていない間に他のプレーヤーと、次のプレーを共有する。 ●チームで確認したことを発揮しパスゲームを行わせる。 ○ポイントを確認し次につなげさせる。 ●練習で身に付けたことを、実際のゲームでも試し、力が付いたか確認させる。(ルールでも工夫をする。) ●ノーマークの状態、ゴールエリアでシュートができれば、今日の課題は達成されることを伝える。 ○全員が得点できるよう協力させる。(ルールでも工夫をする。)	【思・判】 ・提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴をふまえ、ボールをもらうための動きを見つめることができる。 →学習シートへの記入。 ※【技能】 ・パスを出した後にパスを受ける動きをすること。 →9時間目評価する。
終末 1 0 分	8 本時のまとめを行う。 ①グループ→全体→個人内評価 (学習カードを活用) ②教師からの評価 (全体) ③次時の連絡 9 挨拶を元気に行う。 後片付けを皆で行う。	●話し合う観点を整理し、伝える。 ○巡視し助言をする。 ☆【共有化(グ→全→個人内)】 ●全員がノーマークシュートの場面までたどり着くことができたか確認する。 ○個人への教師評価は学習カードに行う。 ●次時は、本時に身に付けた力を実際のゲームにつなげていくことを告げる。	【思・判】 ・提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴をふまえ、ボールをもらうための動きを見つめることができる。 →学習シートへの記入。